



関西英語教育学会

第24回 KELES セミナー

2011年12月18日(日)

龍谷大学・大阪梅田キャンパス 14階

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-2-2

ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階

13:00-16:40 (12:30 受付開始)

プログラム

英語音声指導を成功させるためにできること

	13:00-13:10	開会のことば
I	13:10-14:10	英語音声指導のポイント：関連分野の研究成果をふまえて 門田 修平先生 (関西学院大学・教授)
II	14:10-15:10	実践！英語のリズム・イントネーションの指導 大和 知史先生 (神戸大学・准教授)
	15:10-15:30	休憩・意見交換
III	15:30-16:30	楽しみながら教えよう！英語の発音のしくみ 里井 久輝先生 (龍谷大学・准教授)
	16:30-16:40	閉会のことば

参加費・事前登録

会員無料、非会員 1,000 円

当日参加歓迎。準備の都合上、できるだけ事前登録をお願いします。

<http://keles.web.infoseek.co.jp/seminar/24/>

お問合せ

事務局 神戸大学 横川博一研究室 yokokawa@kobe-u.ac.jp





門田 修平

関西学院大学・大学院教授、関西英語教育学会理事

専門は心理言語学、応用言語学。第二言語としての英語が、どのようにして知覚・処理され、記憶・学習されるかそのメカニズムについて研究している。ことばの科学会、JACETリーディング研究会、LET基礎理論研究部会を中心に活動。趣味は、食べて、飲んで、唄うこと。それと旅行。カラオケの選曲は多種多様。主な著書：『英語リーディングの認知メカニズム』（共編著：くろしお出版）、『英語のメンタルレキシコン』（編著：松柏社）、『決定版 英語シャドーイング』（共著：コスモピア）、『第二言語理解の認知メカニズム』（くろしお出版）、『シャドーイングと音読の科学』（コスモピア）、『SLA 研究入門』（くろしお出版）など。

【講演概要】英語音声指導について、演者が重要と考える次の2点に絞って検討したいと思います。(1)音声の後についてその音声を復唱するシャドーイングによるリスニング力の向上をねらう方法<プロダクティブ・リスニング (productive listening)>は何故効果的なのか。(2)学習者の音声知識を「知っている」状態(顕在記憶)から、「できる」状態(潜在記憶)にシフトすることの意義とその方法はどのようなものか。



大和 知史

神戸大学国際コミュニケーションセンター准教授、関西英語教育学会幹事

博士(教育学)。広島大学大学院教育学研究科博士課程前期、および博士課程後期を修了後、明石工業高等専門学校を経て、現職の神戸大学国際コミュニケーションセンターに勤務。専門は英語教育。特に関心のある領域は、英語のプロソディの指導である。学習者による英語イントネーションの語用論的機能の使用実態の把握や、イントネーションの指導の枠組みを検討している。また、最近では、プロソディの語用論的機能への関心から派生して、語用論的能力の育成や、学習者の語用論的意識の調査なども行なっている。最近の論文は、"Japanese EFL Learners' Pragmatic Awareness through the Looking Glass of Motivational Profiles." 2011. *JALT Journal*. 33, 5-26. (共著論文)

【講演概要】リズムやイントネーションといったプロソディの指導は、重要であるとの認識はあったとしても、なかなか手が回らない(回せない、回したくない?)領域であるように思います。そこで、本セミナーでは、プロソディの指導について、ばらばらに扱われていると思われる語強勢、リズム、イントネーションを、互いに関連させて捉えることを提案します。また、それに基づいた指導への取り込み方などを紹介したいと思います。



里井 久輝

龍谷大学准教授、関西英語教育学会幹事

大阪市生まれ。大阪教育大学教育学部教養学科卒業、英国リーズ大学大学院修士課程修了。大阪大学大学院言語文化研究科博士課程修了、博士(言語文化学)[大阪大学]。専門は音声学、言語学、英語教育。学生時代にシェークスピア劇に接し、英語の音楽的な響きに感銘を受け、音声学を志す。10月からのNHK『3か月トピック英会話 歌って発音マスター!~魅惑のスタンダード・ジャズ編~』講師。楽しくわかりやすい授業に情熱を注ぐ。趣味は音楽鑑賞で、子供の頃から特にクラシック音楽、ジャズ、ポップスに親しんできた。

【講演概要】長い間英語を学んでいるのになかなか発音が身につかない、という話をよく聞きます。英語学習の中で発音が大きな壁になって、苦手意識に悩んでいる学生もたくさんいるように思います。しかし元々音の体系が異なる日本語と英語ですから、むずかしく感じたり、つまずいたりするのはむしろ当然のことといえます。両言語の音声的特徴とその差異に着目して、楽しく英語発音のしくみを学び、教えるヒントを御一緒に考えたいと思います。